

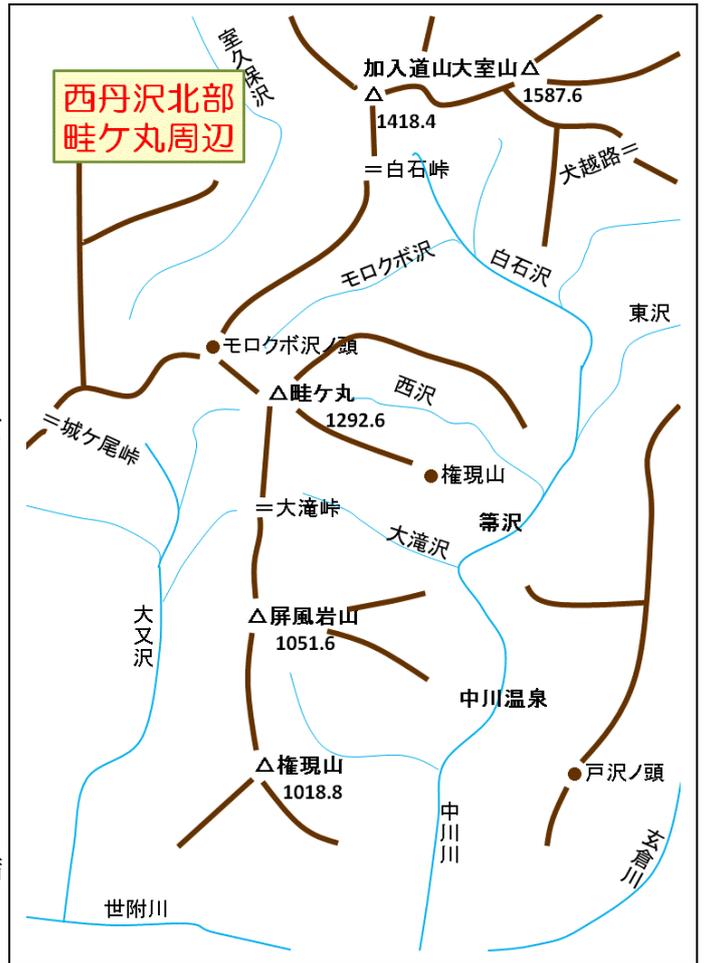
踏み跡 <My Mountains>

丹沢	箒沢から畦ヶ丸	No.159
----	---------	--------

丹沢の西側（西丹）には名前に魅せられて登りたくなる山が沢山ある。加入道山、菰釣山、畦ヶ丸、何か想像が膨らむ山の名前である。単独行、静かな山へは一人で静かに行くのが一番だ。

昭和45年10月30日
 天気は晴れ、遅い出発で立川発 14時16分の南武線。登戸で小田急に乗り換えて新松田に15時50分。玄倉からユーシンに入りたかったがバスが出てしまい、次のバスまでは待ち時間が長すぎる。16時50分のバスで箒沢へ入ることにして、五目そばを食べ本屋で立ち読みをして時間つぶし。箒沢到着は18時30分、日が暮れた谷間は寒い。県営山の家に入ったらもう19時。客はほかに一人だけ。素泊まり250円、部屋の名前が「畦ヶ丸」とは偶然にしては出来過ぎている。例によって食事の後は小屋のおじさんと雑談。20時半就寝。

昭和45年10月31日
 起床6時半、天気は晴。出発8時20分。犬越路への道を分けて白石沢へ。沢のツメで時間短縮を目指して藪こぎをしたら、何と2mの笹が現れた。稜線へ出て一時間余で畦ヶ丸に辿り着いた。12時45分、畦ヶ丸がこんなに眺めの良いところだとは思わなかった。富士の眺めを楽しみながら昼食。（右スケッチ）築五年の立派な避難小屋が建っている。西丹沢はこのところ大分登山道が整備されてきたが、まだ多くの方が足を踏み入れる所までは行っていない。ゆえに五年経っても小屋が汚れず、痛まらずに残っている。これが表尾根だったら一か月もせぬうちに汚れてしまい、やがて不潔で落書きだらけの小屋となってしまうに違いない。西丹沢の山の良さを知っている人が増えていないので山も汚れていない。このままが続く方がいいような気がするが……。ゆっくり休んだ後14時に山頂を出発。大滝峠に回り大滝沢を経て中川温泉へ下った。丹沢の紅葉はこの10日間ぐらいが見ごろではないかと思う。観光地の雑踏の中で見る紅葉よりも静かな西丹沢の紅葉鑑賞の方が遥かに贅沢かもしれない。



以上